

当面の技術対策（畜産編）

令和元年 8 月 15 日

発行：ゆとりみらい 2 1 農業推進協議会指導部会

1 乳牛の飼養管理

8 月上旬の記録的な高温による影響で、第一胃内で異常発酵が起こり、その中で棲息している微生物の数と種類が変化していると考えられます。「牛飼いは虫飼い」といわれます。第一胃内の微生物を元気にすることで、食べたエサの消化性がよくなり、牛が利用できる蛋白質が増えていきます。乳量の向上や繁殖機能を回復させるために、暑さが和らいだ後も暑熱対策を継続しましょう。

（1）何といってもエサが食べられる環境を提供すること！

- ①引き続き牛舎内の換気量を確保して下さい。
- ②水は第一胃内の微生物の増殖にとって欠かせない大切な栄養素です。新鮮な水を十分に与えましょう。
※給水施設はこまめに掃除しましょう。

（2）栄養バランスのとれたエサを給与

- ①粗飼料分析と飼料設計により、適正な飼料給与に努めましょう。
- ②変敗したものを廃棄し、嗜好性が悪い粗飼料の給与はできるだけ避けましょう。
- ③体重の回復を図ることが大切です。大豆粕など蛋白質飼料の過剰給与によるエネルギー不足に注意しましょう。
- ④分離給与の場合は、濃厚飼料の給与回数を可能な限り増やすことが大切です。濃厚飼料の給与回数を増やすことで、第一胃内微生物が増殖し、食べたエサの消化性がよくなります。
- ⑤牛自身の免疫力強化のためビタミン・ミネラルの適正給与に努めて下さい。ビタミン A、ビタミン E、ビタミン C、セレン、銅、亜鉛は、免疫機能を強化します。
- ⑥第一胃内微生物の増殖を促し、エサの消化を助ける生菌剤の給与も有効です。

（3）発情確認の強化

種付け後に発情が再発する恐れがあります。次の周りの時期に入念な発情確認を行うとともに、時期を見て必ず妊娠鑑定を行って下さい。

2 乳房炎の予防

乳房炎が多発する条件が続いています。牛床の衛生管理とともに搾乳衛生管理を徹底して下さい。

搾乳作業のポイントは、①十二分な搾乳刺激と過搾乳の防止により乳頭に負荷をかけないこと、②確実なディッピングにより乳頭を殺菌することです。

通常時よりも乳牛の飼養管理、搾乳衛生管理の強化に努めて下さい